

2018 年度 センター試験 生物基礎（本試験） 分析

全体概況

試験時間 2 科目で 60 分

大問数・解答数	大問数：3 題	解答数：17 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

問題の分量、出題分野、出題形式については、変化はなかった。

難易度については、昨年度より全体としては「やや易化」と言える。確かに、生物多様性と生態系の範囲で出題された、図で与えられた資料を基に考察する問題については、その図が教科書に記載がないため難しく感じられたかもしれない。しかし、昨年、一昨年と出題されていたグラフから考察を求める問題及び計算問題が出題されなかったこと、また、全体として教科書に記載がある基本的な知識を問う問題がほとんどであったことから、昨年度と比べて難易度は低かったと言えるだろう。

生物基礎に費やす時間を 30 分と仮定した場合、問題の量は妥当であると思われる。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	A 細胞と代謝	19 点	A は細胞の構造に関する問題であった。 B は遺伝子に関する問題であった。過去に生物基礎で出題が少ない「遺伝子研究の歴史」について問われたが、各選択肢の内容は教科書に記載がある基本的なものであった。
	B 遺伝子		
第 2 問	A 生物の体内環境	15 点	A は体液や腎臓に関する問題であった。 B は自律神経とホルモンに関する問題であった。 A も B も教科書に基づいた基本的な問題であった。
	B 生物の体内環境		
第 3 問	A バイオーム	16 点	A はバイオームに関する問題で見慣れない分布図が出題されたが、落ち着いて取り組みれば決して難しいものではなかった。 B は、生態系に関する問題で、今までに出題が少ない湿性遷移に関わる問題であったが、問われている内容は作用と環境形成作用に関する基本的なものであった。
	B 生態系		